

明智光秀は、志賀郡を、そして丹波国を与えられた。それまで光秀は、戦いに明け暮れ、束の間の日々を和歌を詠み疲れを癒し過ごしていたのだろう。天正10年(1582)1月20日、吉田兼見は光秀を近江国坂本城に礼問。「茶湯」や夕食で振る舞われ「種々雑談」し、光秀は「機嫌」であったと、記す。同年6月2日明け方、光秀謀反の「本能寺の変」を起こす。その動機は日本史の最大級の謎とされ、様々な説が語られる。

本年表帖は、信長と光秀の軌跡を追う!

惟任日向守、 第六天魔王を討つ!

年表帖 明智光秀・織田信長一代記(下巻)



目次

「はじめに」にかえて……………	2
目次年表……………	3~27
年表帖 明智光秀・織田信長一代記(下巻) ……	28~303
あとがき、奥付……………	304

「はじめに」にかえて

上巻を振り返ると、明智光秀は永禄10年(1567)10月、足利義昭の使いとしてか、岐阜城に織田信長を礼問している。翌年7月には義昭の正式な使者・細川藤孝らが光秀の取次で信長に謁見、同永禄11年(1568)9月織田信長は足利義昭を報じて上洛、三好三人衆らを駆逐し、「室町幕府を再興」。「義昭・信長政権」が誕生します。その政権下で光秀は、信長家臣と共に諸政を担当した。信長は永禄12年「北畠氏討伐戦」、翌年の「越前侵攻戦」、「浅井・朝倉伐戦」、「野田城・福島城の戦い(第一次石山合戦)」、さらに本願寺挙兵に応じた「志賀の陣」と戦い続け、明智光秀は幕府武家衆として従軍し続けた。元亀2年(1571)9月「比叡山焼き討ち」では信長の命とはいえ、光秀は容赦なく放火、抹殺を遂行する。同年9月には義昭と袂を分かち出し、元亀3年「小谷城攻め」でも従軍し、本格的に信長家臣となる。

元亀4年(1573)2月の「義昭の反信長挙兵」には、光秀は義昭と党を攻めるまでとなる。同年7月信長は義昭を追放し、畿内の戦国時代は終わり、織田政権となり「安土桃山時代」がはじまる。

さあ、年表帖(下巻)がはじまります。

この下巻は、天正2年(1574)からはじまり、天正10年(1582)6月の「本能寺の変」、そして翌年、羽柴秀吉が織田家中の第一人者になるまでを掲載しております。

※参考図書及び関連図書は上巻に記載しております。

一部を除き日付までを記載しています。なお、不明な月・日付に関しては「-」で割愛、または「夏」「頃」などと表記している箇所もございます。ご了承下さい。特に重要と思われる事項(歴史的流れのために必要と思われる事件等)は、太字で記載しております。

西暦 和暦	月日	出来事	No.
1574 天正2	1月1日	「 信長、薄濃を着に祝宴 」。	2477
	1月2日	筒井順慶、美濃へ赴いて織田信長に謁見。信長へ正式に隨身する事になる。	2478
	1月11日	織田信長、大和多聞山城番として明智光秀を派遣、この日、光秀、入城。	2484
	1月18日	「 越前一向一揆-1月17日~4月14日 」 蜂起 。吉田郡志比荘の一向一揆蜂起。	2491
	1月-	この月、羽柴秀吉が、居城を近江小谷から今浜に移す。この月、築城に際して今浜を「長浜」と改める。	2504
	2月3日	「明智光秀、東美濃参陣」。織田信長、明智光秀へ、東美濃参陣を命令。武田勝頼の美濃岩村城攻略に対し、迎撃のためである。光秀へ故郷の道案内を指示した。	2511
	2月5日	織田信長父子、美濃国明知城救援のために、岐阜を出陣し美濃国御嵩に布陣。	2514
	2月7日	武田勝頼、山県三郎兵衛昌景に命じて兵六千で信長の退路を断つ。明知城救援の信長、山岳戦の不利を思い、動かず、やがて兵を撤退。	2518
	2月7日	武田勝頼、信長の援軍を失った美濃国明知城内の飯羽間右衛門を内応させて攻略する。『信長公記』では2月5日。	2519
	2月-	「越前一向一揆」。本願寺、惣大将として下間頼照を派遣。	2530
	3月12日	信長に上洛の勅使が来た。織田信長、上洛のため岐阜を発ち、佐和山へ入る。	2537
	3月17日	信長、上洛して相国寺に初めて寄宿する。また、天下第一の名香と謳われる大和国東大寺所蔵の「蘭奢待」を所望する旨を正親町天皇へ奏聞する。	2541
	3月24日	「 信長は、堺の運営を会合衆に任せる 」。信長、相国寺で茶会。	2549
	3月27日	織田信長、軍勢三千余を率い大和国多聞山城へ到着。(『多聞院日記』)。	2555
	3月28日	辰刻に大和国東大寺正倉院が開かれる 。織田信長、「本法に任せて一寸八分を切り取り、「御馬廻」衆へ「未代の物語に拝見仕るべき」旨を通達。(『信長公記』)。	2558
	4月1日	織田信長、朝早々に大和国奈良を出立、京に戻る。(『多聞院日記』)。	2563
	4月2日	「 石山本願寺、再び挙兵 」。本願寺顕如・石山本願寺、織田信長に対して再び挙兵。	2564
	4月13日	「近江守護六角氏の姿は近江から消える」。 織田信長、近江国石部城に六角承禎・六角義治を攻囲、陥落させる。	2572
	4月14日	「 越前一向一揆(1月17日~4月14日)——一揆持の国成立 」。 越前は、大坂石山本願寺の手に一統され、「一揆持」の国となる。	2575
	5月12日	「 第一次高天神城の戦い 」はじまる。徳川家康配下・小笠原信興(長忠)(遠江国高天神城将)、武田勝頼に包囲される。	2580
5月16日	徳川家康、織田信長に、高天神城の援軍を要請。	2581	
5月28日	高天神城援軍の織田信長、京からようやく、美濃国岐阜城に到着。	2586	
6月17日	「 第一次高天神城の戦い 」。武田勝頼、不落と名高い遠江国高天神城を陥落させる。	2597	
6月19日	織田信長、三河国今切を渡る前に小笠原信興(長忠)「(小笠原与八郎)」の逆心により遠江国高天神城が陥落した旨を知り、三河国吉田城へ引き返す。(『信長公記』)。	2598	
6月21日	織田信長・織田信忠、美濃国岐阜城に帰城。(『信長公記』)。	2600	

西暦 和暦	月日	出来事	No.
1574 天正2	7月12日	「信長の第三次伊勢一向一揆討伐戦—7月12日～9月29日」はじまる。織田信長父子、三回目、最後の伊勢長島一向一揆を鎮圧するために出陣。(『信長公記』)。	2608
	7月20日	荒木村重、石山本願寺の出城である摂津國中島城を攻めるも、過半が討死。	2611
	7月27日	明智光秀、大坂表における本願寺・三好勢拳兵の模様を信長に報告する。	2620
	8月5日	織田信長、奥州より献上された鷹見物のため一旦岐阜城に戻る。	2628
	8月8日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。織田信長、岐阜城より、長島陣所へ帰陣。	2631
	8月12日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。織田信長、伊勢国「しのはせ籠城の者」の助命し長島に入城させる。(『信長公記』)。	2633
	9月29日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。織田信長、長島一揆の「御侘言」を許容して一旦長島城退去させたところ、船にて包囲し「鉄炮を揃へうたせ」て、「際限なく川へ切りすて」る。一揆勢中の腕利き者たち七、八百人ばかりが「抜刀」で織田軍を襲撃。損害が甚大であった。(『信長公記』)。	2649
	9月29日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦—7月12日～9月29日」終結。長島一向一揆平定。「信長、一向衆門徒約二万人を焼き殺す」。	2650
	9月29日	信長、美濃国岐阜城へ凱旋。(『信長公記』)。	2651
	11月13日	織田信長、上洛して大和国方面と、義昭に付いた伊丹親興の反乱平定にあたる。	2665
	11月15日	荒木村重ら、織田信長に反乱した摂津三守護の一人・伊丹親興を攻撃。	2668
	11月25日	織田信長、岐阜に帰国する。	2673
	1575 天正3	1月-	この月、明智光秀、丹波を与えられ、その平定を命じられる。
1月21日		明智光秀、丹波平定と坂本城に帰城のため岐阜を出立する。	2689
2月6日		明智光秀、大江山に眺む。また、丹波守護代内藤氏の一族、口丹波亀山城主・内藤忠行は、光秀の入部を祝し、忠行の主従を始め諸将が光秀に隨身する。	2693
2月13日		明智光秀、村井貞勝と共に、山城嵯峨清涼寺へ全三ヶ条の禁制を下す。	2696
2月27日		織田信長、上洛のために岐阜城を出立、美濃国垂井まで移動。(『信長公記』)。	2703
2月29日		明智光秀、宇津根・雑水川・安行山の三方から攻撃し、過部城(余部城、丸岡城)を攻略。福井因幡守貞政は討死。光秀は、明智治右衛門を留守居として入れる。	2706
3月3日		織田信長、新道を経て上洛。	2709
3月28日		織田信長、関白二条晴良(「二条殿」)との間に祝言を執り行う。(『多聞院日記』)。	2721
4月1日		織田信長、「主上・公家・武家ともに御再興」を公表。(『信長公記』)。	2723
4月4日		明智光秀、二千の軍勢を率い河内国へ出陣。	2726
4月6日		織田信長、一万余の軍勢を率い河内国(「南方」)へ出陣。(『兼見卿記』)。	2729
4月8日		「高屋城の戦いの二—4月8日～4月19日」(第二次石山合戦)はじまる。織田信長、河内国高屋城の三好康長(後の咲岩、笑岩)への攻撃を開始。	2733
4月14日		織田軍、大坂石山本願寺近くを攻撃。作毛悉く難捨てた。(『信長公記』)。	2736

西暦 和暦	月日	出来事	No.
1575 天正3	4月19日	「信長、河内国平定—高屋城の戦いの二—4月8日～4月19日」(第二次石山合戦)終結。高屋城の三好康長、松井友閑を介して降伏をし、赦免される。	2743
	4月20日	織田信長及び織田軍、夕刻に河内国より京に向かう。(『多聞院日記』)。	2744
	4月21日	織田信長、河内国より帰陣し入京す。(『兼見卿記』)。	2746
	4月28日	吉田兼見、満千代を同行し神楽岡辺で美濃国岐阜へ下向する織田信長を見送る。	2748
	4月29日	織田信長、この日の辰刻に美濃国岐阜城へ帰城。	2749
	5月13日	織田信長、長篠城救援のため、信忠と共に、美濃国岐阜より三河国へ向けて出陣。	2756
	5月14日	明智光秀、坂本にて島津家久・里村紹巴らを饗す。	2757
	5月18日	信長と徳川家康の軍勢三万が布陣。家康、長篠城西方設楽原高松山に布陣。東向きに敵に備え、馬防柵を設置。信長は極楽寺山に布陣、長篠の後詰めをする。	2769
	5月21日	「信長、武田勝頼を破る—長篠・設楽ヶ原の戦い」。	2773
	5月25日	織田信長、美濃国岐阜城に凱旋。(『信長公記』)。	2777
	6月2日	織田信長、山城勧修寺門跡聖信の敵意の無きにつき、越前の所領安堵を、明智光秀に一任すると伝える。	2780
	6月-	「第三次岩村城の戦い—6月～11月21日」はじまる。長篠の戦いに勝利した信長は、そのまま、嫡男・織田信忠に軍を預けて、「裏切り者」の美濃国岩村城に侵攻させる。	2781
	6月10日	織田信長、小島左馬之助(永明)へ、明智光秀を派遣した際に丹波の案内者となるよう命じ、手柄次第で新たな領地も加増するだろうと朱印状を送る。	2787
	6月17日	「第一次丹波国征討戦(天正3年6月17日～天正4年1月15日)—光秀の丹波攻めがはじまる」。	2792
	6月26日	織田信長、岐阜城を発し、近江国佐和山城に於いて休息をとり、「早舟」にて近江国坂本より渡海。小姓衆五、六名を随行させていた。(『信長公記』)。	2799
	6月27日	「絹衣相論—信長が、禁裏五奉行を定め、朝廷政治に関与しはじめる」。	2800
	7月7日	明智光秀、村井貞勝・原田(塙)直政と共に、山城野中郷の島の壬生朝芳と黒瀬清秀の所領争論を裁許する。壬生官務宛てに所領安堵の連署状を出す。	2809
	7月15日	織田信長、京都を発し美濃国岐阜城へ向かう。(『信長公記』)。	2815
	7月16日	「長宗我部元親、土佐統一」。「四万十川の戦い」で一条軍を撃破した元親、その勢いで甲浦城を攻略。十五年の歳月を要した。やがて四国制覇に赴くこととなる。	2816
	7月17日	信長、美濃国岐阜城へ帰還。(『信長公記』)。	2818
7月19日	明智光秀、岐阜に伺候する。	2820	
7月24日	明智光秀、小島永明(左馬之助)に書状を送り、内藤氏と宇津氏討伐のため、「宇津表」に動員を要請。が、始まったばかりの「丹波攻め」は、翌8月には早くも停滞する。	2823	
8月12日	「越前一向一揆平定戦—8月12日～8月19日」はじまる。織田信長、十万の軍勢を率い、再び、越前一向一揆討伐に向けて美濃国岐阜城を出陣。(『信長公記』)。	2827	

西暦 和暦	月日	出来事	No.
1575 天正3	8月15日	「越前一向一揆平定戦」。織田信長、織田軍先鋒隊と「越前牢人衆」先陣として三万余騎を越前国諸口より乱入させる。(『信長公記』)。	2832
	8月15日	「信長の越前一向一揆平定戦」。羽柴秀吉、明智光秀と相談し、この夜中に海沿いに進んで大良越諸口より乱入し敵城を次々と攻め落とし、府中へ進撃。(『信長公記』)。	2835
	8月16日	「越前一向一揆平定戦」。明智光秀・羽柴秀吉が府中へ侵入し敵兵を掃討したこと、越前国は「一国平均」に属し「府中町へ死かいかい計にて一円あき所な」い状態となる。	2838
	8月19日	「 信長、一向一揆三万余人を殺害—越前一向一揆平定戦(8月12日～8月19日) 終結 」。 一揆衆の越前支配は一年半余りで終わりをつけた。	2845
	8月23日	稲葉一鉄(良通)と稲葉貞通父子をはじめ、明智光秀・羽柴秀吉・長岡(細川)藤孝・築田広正(別喜右近)、加賀国へ進撃する。(『信長公記』)。	2855
	9月2日	「 信長、越前国割 」。織田信長、越前国坂井郡豊原寺を焼き払い、越前国北庄へ移動し、縄張を開始。堅城を築くよう命じた。	2864
	9月2日	織田信長、明智光秀に再び丹波出陣を命じる。	2865
	9月-	織田信長、越前国支配を担当する柴田勝家の「目付」に任命した不破光治・佐々成政・前田利家へ、全九ヶ条の越前国「掟条々」を通達。	2869
	9月15日	信長、上洛、京都妙覚寺を宿所とする。「公家衆」は信長の北国からの凱旋を祝賀。	2876
	9月17日	信長、岐阜へ帰るため京を発つ。	2880
	9月23日	明智光秀、越前より帰国。これより先、越前を平定し加賀代官職を命じられ、その処置に当たる。	2887
	9月26日	織田信長、美濃国岐阜城に帰還。(『信長公記』)。	2892
	9月27日	「明智光秀今井郷惣中宛書状」。明智光秀、大和国今井郷惣中へ、津田宗及の斡旋により武装解除を承認。また詳細は藤田伝五(行政)より伝達させる。	2893
	10月1日	「信長は西方への領土拡大戦を策定し、丹波、丹後両国の平定を、光秀に命じていた」。	2898
	10月5日	「第二次和睦をはかる」。織田信長、また、石山本願寺との和睦締結をはかる。	2904
	10月10日	織田信長、陸奥国より献上された鷹十四足と鶴三足を伴い、上洛のため岐阜城を発す。この日は美濃国垂井に宿泊。(『信長公記』)。	2911
	10月13日	織田信長十月十日、上洛し衣棚押小路の妙覚寺に入る。(『信長公記』)。実は13日。	2915
	10月中旬	「 第一次丹波国征討戦—第一次黒井城の戦い(天正3年10月～天正4年1月15日) 」はじまる。	2916
	10月20日	織田信長、京都二条妙覚寺に於いて別所長治・小寺政職・赤松広秀(斎村政広)ら播磨国衆の参洛礼問を受ける。(『信長公記』)。	2924
	10月21日	「 石山本願寺との第二次和睦、正式に成立—第二次石山合戦終結 」。	2926
10月26日	「 長宗我部元親、明智光秀の取次ぎで信長と同盟を結ぶ 」。	2930	
10月28日	織田信長、衣棚押小路の妙覚寺に於いて京都・和泉国堺の「数寄仕候者」十七名を招喚し、信長の茶頭となった千宗易(千利休)の点前による茶会を開催。	2931	

西暦 和暦	月日	出来事	No.	
1575 天正3	11月7日	「 信長、武家の棟梁として地位を得る 」。織田信長、正親町天皇より「御かはらけ」(土器)を下賜された。また同日、織田信長は「右大将」を兼任することになる。	2938	
	11月-	「第三次岩村城の戦い」。岩村城籠城の秋山信友軍は、織田家臣・塚本小大膳を介して降伏を申し入れる。五ヶ月間持ちこたえた城衆の降伏が認められた。	2948	
	11月13日	信長、武田勝頼の美濃国岩村城への侵攻により、俄かに京都を出立、岐阜へ下向。	2950	
	11月-	「第一次黒井城の戦い」。この月も、明智光秀、丹波黒井城を攻める。包囲を完了した光秀は、黒井城の周囲に陣地となる付城を多数築き、戦は持久戦になった。	2952	
	11月21日	「 第三次岩村城の戦い(6月～11月21日) 終結—信長、秋山信友の降伏条件を反故 」。	2956	
	11月28日	「 信長、信忠に家督譲与 」。織田信長、織田信忠(「菅九郎」)に織田「家督」を譲与す。	2960	
	12月2日	明智光秀、在々所々百姓中へ徳政令を発す。	2967	
	12月29日	明智光秀・村井貞勝、山城国若宮八幡宮領と西九条名主・百姓中へ、境内(「縄内」)の年貢・地子銭を「当知行」として諒承し、社納することを命令。	2976	
	1576 天正4	1月15日	「 第一次丹波国征討戦(天正3年6月17日～天正4年1月15日)—第一次黒井城の戦い(天正3年10月～天正4年1月15日) 終結—明智光秀大敗 」。	2981
		1月中旬	織田信長、丹羽長秀(「丹羽五郎左衛門」)へ、近江国安土山「御普請」を命令。	2982
1月21日		丹波で苦戦の明智光秀、丹波国より近江国坂本へ帰還。	2987	
2月8日		足利義昭、備後鞆に移る。	2994	
2月18日		「第一次黒井城の戦い」で敗れたが、再び戦の準備を整えた明智光秀が、丹波に向けて、坂本城を出陣。防備は固く、この時はほとんど戦わず短期間で引き揚げた。	2999	
2月23日		岐阜城を信忠に譲った織田信長、建築中の近江国安土城に御座を移す。	3001	
2月26日		明智光秀、安土に伺候し、安土城の普請を進言する。	3005	
3月-		「 石山本願寺の籠城五年(第三次石山合戦—天正4年(1576)3月～天正8年(1580)閏3月5日) 」はじまる。石山本願寺が織田信長に対して三度、挙兵する。	3026	
4月3日		「第三次石山合戦」。信長、石山本願寺を攻撃中の明智光秀・長岡(細川)藤孝へ、「立札」を諸口に立てることを命令。	3030	
4月14日		明智光秀、河内国平野へ出陣。(『兼見卿記』)。	3034	
4月29日		織田信長(「右大将信長卿」)、近江国安土城より上洛。(『言経卿記』)	3040	
5月3日		「 第三次石山合戦 」。 石山本願寺一揆勢、摂津国天王寺砦を守備する明智光秀らを攻囲 。	3048	
5月5日		織田信長(「右大将」)、未明に大坂へ向けて出陣。(『言経卿記』)。	3055	
5月7日		「 第三次石山合戦 」。織田信長は、 わずか三千ばかりの兵で出撃し、一万五千もの敵勢へ打ち向かった 。	3058	
5月8日		明智光秀、信長から戦功の褒賞として家臣の御目見を許される。	3063	
5月10日		筒井順慶が信長から大和の支配権を認められ、松永久通は、軍事的には佐久間信盛と力となり、奈良の統治者を自認する松永久秀最終の謀反の背景となる。	3067	

天正2	1月1日	「正月朔日、京都隣国の面々等、在岐阜にて、御出仕あり。各三献にて、召し出だしの御酒あり。他国衆退出の已後、御馬廻ばかりにて、古今に承り及ばざる珍奇の御看出で候て、又、御酒あり。去る年北国にて討ちとせられ候一、朝倉左京大夫義景首。一、浅井下野、首。一、浅井備前、首。已上三つ、薄濃にして、公卿に居置き、御看に出だされ候て、御酒宴。各御謔、御遊興。千々万々、目出たく、御存分に任せられ、御悦ぶなり。」(『信長公記』)。 「 信長、薄濃を肴に祝宴 」。織田信長(1534~1582)、美濃国岐阜城に於いて京都周辺の面々(「他国衆」)の「出仕」を受けて各自に三献ずつ下賜。「他国衆」退出後「御馬廻」のみで朝倉義景(「朝倉左京大夫義景」)・浅井久政(「浅井下野」)・浅井長政(「浅井備前」)の首級「薄濃」を酒肴に祝勝会を行う。	2477
	1月2日	筒井順慶(1549~1584)、美濃へ赴いて織田信長(1534~1582)に謁見 。信長へ正式に随身する事になる。	2478
	1月6日	織田信長、山城国本圀寺へ、贈られてきた杉原紙十帖と「板札」を謝す。	2479
	1月6日	織田信長、尾張国の岩室小十蔵へ知行を安堵。	2480
	1月6日	織田信長、幸若八郎九郎義重に越前で領地を与える。信長は、幸若太夫(六代)八郎九郎(義重)に対し、越前朝日村周辺に百石、幸若領としての知行領地の朱印状を下賜した。	2481
	1月8日	松永久秀(1508?~1577)・久通(1543~1577)父子が、大和から岐阜を訪れ、織田信長に赦免の礼を述べる。	2482
	1月9日	上杉謙信(1530~1578)、西上野を経略せんとし、徳川家康(1543~1616)に、織田信長と共に信濃・甲斐に出陣せんことを求む。	2483
	1月11日	「タモン山ルス番替ニ明智来了云々。」(『多聞院日記』)。 信長、大和多聞山城番として明智光秀(1528?~1582)を派遣、この日、光秀、入城。	2484
	1月12日	織田信長、陶工の加藤景茂(「加藤市左衛門尉」)へ、「瀬戸焼物釜」(竈)は「先規」の如く加藤景茂が尾張国瀬戸でだけ使用することを許可し、他所の陶器の竈は一切許可しないことを通達。 信長は、瀬戸物を焼く窯を尾張瀬戸の加藤市左衛門のみに許し、他所の窯業を禁止した。	2485



本圀寺跡碑

天正2	1月-	この月、織田信長、以前焼き払った京都上京中へ、復興建築が開始されたため軍勢の寄宿を禁止し、市中再興を促す。	2486
	1月15日	筒井順慶、美濃国岐阜より大和国へ帰還。(『多聞院日記』)。	2487
	1月15日	興福寺大乘院尋霊(1529?~1585?)、明智光秀(1528?~1582)へ音信する。	2488
	1月16日	織田信長、越前国の千福式部大輔へ、越前国府中近辺に於いて一揆を誘発しようとした「村主」を子息の千福又三郎が捕縛したことを賞す。	2489
	1月17日	織田信長、明智光秀へ、汝を西国征将とする、先ず丹波を征伐すべし、藤孝も共に赴くべし」と述べ、「(天正二年甲戌正月)十七日御慶応有、(中略)此時信長公仰に明智光秀の四男を筒井主殿入道順慶の養子とし、光秀の娘を織田七兵衛信澄(信長の御舎弟勘十郎の子なり)に嫁すへき由、又藤孝君に光秀と縁家たるへきよし被命候、」(『綿考輯録 卷三』)。細川家記である。 織田信長(1534~1582)、明智光秀(1528?~1582)へ、子息十二郎(自然、定頼)を筒井順慶(1549~1584)の養嗣子として、娘二人(三女川手の方と四女珠子(玉子、後のガラシャ)?)を織田信澄(信長実弟・信勝(信行)の子)と細川与一郎(忠興)に、それぞれ嫁がせることを約束させる。	2490
	1月18日	「 越前一向一揆-1月17日~4月14日 」蜂起。 吉田郡志比莊(福井県吉田郡永平寺町志比)の一向一揆蜂起。越前守護代・桂田長俊(前波吉継)(1524~1574)に不満を抱いていた富田長繁(越前国府中城将)(1551~1574)、安居景健(朝倉景健)(1536?~1575)らは一向衆に同調して決起する。	2491
	1月19日	「越前一向一揆」。越前国一揆・富田長繁ら、一乗谷城を攻撃して越前国守護代・桂田長俊(前波吉継)(1524~1574)を殺害。	2492
	1月19日	「越前一向一揆」。越前一向一揆蜂起で、この日、桂田長俊(前波吉継)殺害の報に接し、織田信長は、羽柴秀吉・武藤宗右衛門舜秀・丹羽長秀・不破光治・不破彦三郎直光・丸毛兵庫頭長照・丸毛三郎兵衛兼利・若州衆を越前国一揆鎮圧のために越前国敦賀へ出陣させる。(『信長公記』)。	2493
	1月21日	「越前一向一揆」。越前足羽郡北庄にいた織田家の津田元嘉(もとよし)・木下祐久(?~1584)・三沢秀次(溝尾茂朝)(1538~1582)の北庄三人衆、一揆の襲撃を受けるも、朝倉田臣の仲介によって岐阜に帰される。	2494
	1月24日	「何人百韻」。明智光秀(1528?~1582)、多聞山城(奈良市法蓮町)にて里村紹巴(1525~1602)らと連歌会を催す。	2495
	1月24日	「越前一向一揆」。富田長繁、魚住景固父子を殺害。 敵対していなかった魚住一族まで滅ぼしたことに一揆衆は反発し、無策な長繁と手を切った。	2496
	1月26日	「連歌百韻」。明智光秀、多聞山城にて中坊駿河守の興行で覚祐(奈良連歌師)、里村紹巴らと連歌を詠む。 この場合の百韻とは連歌・俳諧で、百句を連ねて一巻きとする形式。懐紙四枚を用い、初折は表八句・裏十四句、二の折・三の折は表裏とも各十四句、名残の折は表十四句・裏八句を記す。連歌は短歌の五・七・五の上句と七・七の下句を交互に詠み続ける、一種の連想ゲームで、前に詠んだ人の句を解釈して、その句から連想してさらに新しい句を詠むのである。	2497
	1月27日	多聞院英俊、明智光秀(「明智」)へ、礼問使として川西佐馬を派遣。	2498

天正2	1月27日	武田勝頼(1546~1582)、美濃国岩村口(岐阜県恵那市岩村町)に出陣し、岩村城付城十八城を次々と攻略、織田方の明知城(恵那市明智町)へ向かう。	2499
	1月28日	「越前一向一揆」。一向一揆勢、加賀より七里頼周(1517~1576)を大将として招く。	2500
	1月30日	明智光秀(1528?~1582)、石原勘左衛門を使いとして興福寺大乘院尋憲(1529~1586)に、寺宝になっていた法性五郎の長太刀閲覧を依頼。二月二日、これを拝覧する。そして、礼を言って返しに来た。(『尋憲記』)。	2501
	1月30日	織田信長、某へ、小姓兩人が不屈きを働いたため今後の懲戒のために「成敗」することを命令したところ、特に努力し「生害」させた心遣いを賞して長井隼人分の知行のうち三万疋の年貢のある知行を宛行う。	2502
	1月-	この月、足利義昭(1537~1597)、紀州由良の興国寺から泊城(和歌山県田辺市)に移る。紀伊は畠山氏の勢力がまだ残る国であり、特に畠山高政(1527~1576)の重臣であった湯川直春(?~1586)の勢力は強大であった。	2503
	1月-	この月、羽柴秀吉(1537~1598)が、居城を近江小谷から今浜に移す。この月、築城に際して今浜を「長浜」と改める。 秀吉は、信長に承った大切な小谷のお城を琵琶湖畔に移転させ、尚且つここ今浜という地名を信長の「長」という一字を拝領して「長浜」と改名、その城を長浜城(信長の江浜のお城)という大義を示したという。それは、長浜城の完成した天正3年秋ともいう。	2504
	1月-	織田信長、越前国の橋屋三郎五郎へ、全三ヶ条の「条々」を下す。 この月、信長、北庄の橋屋三郎五郎に、唐人座・軽物座の支配を安堵。「唐人座」は薬種商売、「軽物座」は、各種衣料、特に生糸・絹織物商売。	2505
	1月-	織田信長、大和国法隆寺へ全三ヶ条の「掟」を下す。	2506
	2月1日	明智光秀、筒井順慶の訪問を受ける。	2507
	2月1日	織田信長、美濃国吉村名字中・木村十兵衛・田中真吉・西松忠兵衛へ、高木貞久(「高木彦左衛門尉」)(?~1583)に美濃国今尾城(岐阜県海津市平田町今尾)を守備させるので協力を命令。	2508
	2月1日	織田信長、武田勝頼が攻囲している美濃国明智城へ、尾張衆・美濃衆から編制された援軍を派遣。 (『信長公記』)。	2509
	2月3日	織田信長(1534~1582)、岐阜を訪ねた津田宗及(?~1591)に秘蔵の茶器を披露する茶会を催す。 織田(津田)信澄(1555?~1582)は、美濃岐阜城で開かれた信長主催の茶会に御通衆の「御坊様」として出席。	2510
	2月3日	「明智光秀、東美濃参陣」。 織田信長、明智光秀(1528?~1582)へ、東美濃参陣を命令。武田勝頼の美濃岩村城攻略に対し、迎撃のためである。光秀へ故郷の道案内を指示した。多聞山城の留守番役に長岡(細川)藤孝(1534~1610)が入る。	2511
	2月4日	明智光秀、石清水八幡宮善法寺に、美濃生津(岐阜県本巣市)の直務を命じる。 生津荘公用について、善法寺が能村甚八郎より七貫文を借銭していたため、数十年にわたり能村が二倍の額の所務を徴取していたが、このたび五石を善法寺が能村に返却したので、公用は善法寺に直接納めるように同寺に伝える。	2512
	2月4日	織田信長、佐久間信盛へ、武田勝頼が美濃国明智城を攻撃したのに対して「十六かしら」を随行させ出撃を命令。	2513

天正2	2月5日	織田信長(1534~1582)・信忠(1557~1582)父子、美濃国明知城(岐阜県恵那市明智町)救援のために、岐阜を出陣し美濃国御嵩に布陣。 (『信長公記』)。	2514
	2月5日	織田信長・織田信忠、美濃国神鏡 <small>こうの</small> に布陣。(『信長公記』)。	2515
	2月5日	上杉謙信、沼田城(群馬県沼田市)に入る。謙信が徳川家康に書を送り、自身の関東出馬を報じ、織田信長と連携しての武田勝頼への牽制を依頼する。	2516
	2月6日	織田信長・織田信忠、美濃国明知城救援のために山中を行軍。(『信長公記』)。 明知城の西方鶴岡山に布陣。	2517
	2月7日	武田勝頼(1546~1582)、山県三郎兵衛昌景に命じて兵六千で信長の退路を断つ。 明知城救援の信長、山岳戦の不利を思い、動かず、やがて兵を撤退。 信長、高野 <small>たかね</small> に城を普請して河尻秀隆(1527~1582)を入れ、また小里にも付城を築いて池田恒興(1536~1584)に守らせ、武田勢に備えさせた。	2518
	2月7日	武田勝頼、信長の援軍を失った美濃国明知城内の飯羽間右衛門(?~1582)を内応させて攻略する。 『信長公記』では2月5日。 飯羽間右衛門は、東濃衆として信長に従い明智城を守備していたが、武田勝頼軍に囲まれた時、城内にて謀反、他の守将を殺して開城したという。	2519
	2月-	この月、家臣団によって隠居させられた土佐中村の一条兼定(1543~1585)が豊後に追放される。妻の実家である豊後国・大友氏のもとへ送られる。この混乱に乗じ、叛乱鎮定に名を借りた長宗我部元親により中村を占領されることになる。 土佐をほぼ統一した長宗我部元親(1539~1599)、翌年7月の「四万十川の戦い」で、統一を決定づける。	2520
	2月11日	「足利義昭御内書」。義昭、一色式部少輔入道(一色藤長)宛送付。	2521
	2月13日	織田信長、小早川隆景(「小早川左衛門佐」)へ、「因州之儀」について毛利氏が鳥取(「鳥執」)をはじめとして国人らを掌握し「救免平均」したことはもともとであり、以前要請された「但州出勢之事」は油断無く、機会をみて連絡する旨を通知。	2522
	2月18日	明智光秀、長岡(細川)藤孝へ、信長軍の状況について報告する。	2523
	2月18日	「越前一向一揆」。旧朝倉家臣と割れた越前一向一揆、富田長繁(1551~1574)や府中三門徒衆らを討ち取り、府中城を攻略する。	2524
	2月19日	「越前一向一揆」。越前一向一揆、信長方の越前金津の溝江館(福井県あわら市大溝一丁目)を攻略する。溝江・富樫一族が自刃。 溝江景逸・長逸父子および一族郎党30余人は館に火を放ち、客人富樫泰俊(1511?~1574)・楯春(1548?~1574)父子らと共に自刃した。	2525
	2月23日	一色藤長・長岡(細川)藤孝、大友義鎮(「左衛門督入道」)へ、「豊芸和融」は「先御代」(足利義輝)以来の命令事項であり、「公儀於御馳走者都鄙静謐之基併可為御大忠」の旨の足利義昭御内書の添状を送る。詳細は久我宗入が通達する旨を通知。	2526
	2月24日	織田信長、嫡子信忠と共に、岐阜城に帰陣。(『信長公記』)。	2527
	2月28日	「越前一向一揆」。一向一揆勢、大野郡平泉寺を攻撃するが敗れる。	2528
	2月29日	筒井順慶、夕刻に美濃国岐阜より大和国へ帰還。(『多聞院日記』)。	2529
	2月-	「越前一向一揆」。本願寺、惣大将として下間頼照(1516~1575)を派遣。	2530

天正2	3月2日	織田信長、毛利輝元(「毛利右馬頭」)・小早川隆景(「小早川左衛門佐」)へ、聖護院道澄(「聖門」)が長期にわたり毛利領国に「在国」しているが、聖護院道澄(1544~1608)の下国に際して織田信長書状(「愚札」)を送付したことがあることに触れ、毛利元就以来の織田信長に対する毛利氏の入魂および詳細なる音信を喜ぶ。また聖護院道澄の「御上国」の際には織田信長が馳走を承ることを通知。	2531
	3月5日	織田信長、佐久間信榮(1556~1632)へ、近江国甲賀郡の地侍が降伏出頭して来たという報告を受けて、その恭順を承認し、六角承禎(1521~1598)・義治(1545~1612)父子の籠もる石部城に対して、付城を構築して攻撃を継続するよう命令。	2532
	3月7日	村井貞勝、旧に依り、山科の沢野井氏に夫役を免じる。	2533
	3月8日	筒井順慶・高田某・岡某・箸尾為綱(高春)ら大和国人衆が悉く上洛す。(『多聞院日記』)。	2534
	3月9日	柴田勝家(1522?~1583)、夕刻に大和多聞山城(奈良市法蓮町)番替として着任。大軍勢のため、一部が興福寺に陣取る。(『多聞院日記』)。	2535
	3月10日	柴田勝家、大和国興福寺(「寺門」)へ使者を派遣し「ナラ中ノ成敗」を嚴重に通達。(『多聞院日記』)。	2536
	3月12日	信長に上洛の勅使が来た。織田信長、上洛のため岐阜を発ち、佐和山(滋賀県彦根市古沢町)へ入る。	2537
	3月13日	筒井順慶(1549~1584)、織田信長を迎えるためにこの朝に上洛。(『多聞院日記』)。 多聞院英俊、昨夜に箸尾為綱・高田某・岡某ら大和国人衆「一類」が悉く帰還させられたことを知る。大和国人衆が「人質」提出を「難渋」したためという。(『多聞院日記』)。	2538
	3月16日	織田信長、近江国永原(滋賀県野洲市永原)に宿泊。	2539
	3月17日	柴田勝家(1522?~1583)、織田信長の上洛に際し十市常陸介遠長(「十常」)(?~1593)を同行して上洛。(『多聞院日記』)。	2540
	3月17日	織田信長、近江国志那(滋賀県草津市志那町)より坂本へ渡海する。 信長、上洛して相国寺に初めて寄宿する。また、天下第一の名香と謳われる大和国東大寺所蔵の「蘭奢待」を所望する旨を正親町天皇へ奏聞する。	2541
	3月18日	織田信長(1534~1582)、正四位下に昇進、下参議に叙任される。嫡男信忠(1557~1582)は従五位下、次男北畠具豊(信雄)(1558~1630)は従五位下・侍従。	2542
	3月20日	足利義昭(1537~1597)、武田勝頼・上杉謙信・北条氏政に、互いに講和することを命じ、徳川家康と本願寺顕如と共に、室町幕府の再興に尽力することを指示。謙信には、自分が上洛できたなら、天下の政治はこれを任せると、甘言をいう。	2543
	3月20日	足利義昭、水野信元(家康の生母・於大の方(伝通院)の異母兄)(?~1576)に御内書を送り、武田勝頼と協力して信長を討伐せよと促す。	2544
	3月21日	筒井順慶、京都より大和国へ下向。(『多聞院日記』)。	2545
	3月21日	塙直政(「塙九郎左衛門」)(?~1576)、大和多聞山城(「此城」)に在番す。(『多聞院日記』)。	2546
	3月23日	筒井順慶の妻と母・向井・井戸が「人質」として上京させられる。(『多聞院日記』)。	2547
	3月23日	塙直政(?~1576)・筒井順慶(1549~1584)が、東大寺に対して、蘭奢待切り取りを申し入れる。東大寺側、そのためには勅許があると返答。	2548

天正2	3月24日	「信長は、堺の運営を合衆に任せる」。信長(1534~1582)、相国寺で茶会。信長は、堺の有力者十人を招いた。紅屋宗陽・塩屋宗悦・今井宗久(1520~1593)・西屋宗左・山上宗二(1544~1590)・松江隆仙・高三隆世・千宗易(利休)(1522~1591)・油屋常塚(伊達常言)・津田宗及(?~1591)。お茶の後、今井宗久、千宗易および津田宗及には書院にて名物の千鳥の香炉、ひしの盆、香合が披露された。	2549
	3月25日	多聞院英俊、明後日に織田信長が大和国奈良へ下向するという報に接す。(『多聞院日記』)。	2550
	3月26日	「大乘院新御所」、京都宇治まで信長を出迎える。(『多聞院日記』)。 尋憲(1529~1586)であろうか。	2551
	3月26日	勅使の日野輝資(1555~1623)・飛鳥井雅教(1520~1594)、正親町天皇(勅定)として「御院宣」を奉じて大和国東大寺に派遣される。蘭奢待切り取りを許可する論旨が下され、勅諭を拝受した東大寺の僧衆は、蘭奢待の開封を認めた。	2552
	3月27日	大和国衆も悉く織田信長を出迎えに京都へ上る。(『多聞院日記』)。	2553
	3月27日	信長を出迎えるために大和国神人は百人、地下衆(領民)は、一町より十人ずつ肩衣・袴の装束で木津まで出向く。(『多聞院日記』)。	2554
	3月27日	織田信長、軍勢三千余を率い大和多聞山城(奈良市法蓮町)へ到着、奈良中僧坊以下へは陣取りを嚴重に禁止した。(『多聞院日記』)。 「重御奉行」は「津田坊」(津田信澄)(1555?~1582)、「御奉行」は塙直政・菅屋長頼・佐久間信盛・柴田勝家・丹羽長秀・蜂屋頼隆・荒木村重・武井夕庵・松井友閑であった。(『信長公記』)。	2555
	3月27日	筒井順慶(1549~1584)、大和多聞山城に於いて織田信長に夕飯を振る舞う。(『多聞院日記』)。	2556
	3月28日	織田信長、大和国東大寺に於いて「蘭奢待」(蘭奢待)を五片切り取り、「三庫」(東大寺正倉院)へ返還。それ以外は切り取らなかった。「勅使」三名が再度「勅符」を付けた。蘭奢待は全長五尺、直径一尺ほどの香木であった。正倉院からは蘭奢待と同様に「紅沈」も取り出されたが、これは切り取りの「先規」が無いということでそのまま返還。(『多聞院日記』)。 辰刻(8時)に大和国東大寺正倉院が開かれる。蘭奢待(「彼名香」)の入った六尺の長持は大和多聞山城に運ばれ、「御成の間舞台」にて織田信長が一見した。そして「本法に任せて」一寸八分を切り取り、「御馬廻」衆へ「末代の物語に拝見仕るべき」旨を通達。(『信長公記』)。 「信長、天皇家への高圧的な態度を示す」。信長名代の「津田坊」(津田信澄)ら、大和国東大寺正倉院へ向かう。辰刻(8時)に東大寺正倉院が開かれる。蘭奢待を多聞山城に運び、信長の前で一寸八分四方を切り取った。寛正6年(1465)室町八代将軍足利義政以来である。信長は蘭奢待の他に銘木紅沈を見たが、切り取りはしなかった。その晩、信長は、八幡宮、大仏殿に参詣した。 信長から届けられた木片を見て、天皇は「不覚にも正倉院を開けられてしまった」と悔しさを記す。天皇は抗議の意味を込めて、その木片を信長と対立している毛利氏に贈った。また、正親町天皇(1517~1593)は、蘭奢待を泉涌寺、尾張一宮(真清田神社)に納める。	2557
	3月28日	明智光秀・村井貞勝、山城法金剛院宛てに所領安堵の連署状を出す。	2559
	3月-	この月、織田信長、三淵藤英の旧城伏見を壊す。	2560

天正2	3月-	織田信忠(1557~1582)、美濃国立政寺へ全三ヶ条の禁制を下す。	2561
	3月-	織田信忠、津田愛増(津田秀政)(1546~1635)へ、祖父の津田玄蕃允(織田秀敏)「跡職」・知行方・被官・家来等を以前の如く給与する。また近江国虎御前山に於いて津田甚三郎を勘当した際に減少した知行については、織田信長「朱印」を以て他人に知行させた分以外を糺明の上で給与することを通達。	2562
	4月1日	織田信長、朝早々に大和国奈良を出立、京に戻る。(『多聞院日記』)。	2563
	4月2日	「石山本願寺、再び挙兵(第二次石山合戦 天正2年4月2日~天正3年10月21日)」。	2564
		本願寺顕如光佐(1543~1592)・石山本願寺、織田信長に対して再び挙兵。	
	4月3日	「第二次石山合戦」。織田信長、本願寺顕如(「大坂」)が「御敵の色を立申」したため即時軍勢を派遣し、苅田および放火を実行させる。(『信長公記』)。	2565
	4月3日	織田信長、筒井順慶(「筒井房」)へ、石山本願寺の「大坂惣張行之造意」に対して織田軍は近辺に放火することを通達し、来たる四月十二日に総攻撃を仕掛けるので筒井順慶は四月十一日に大坂表に出陣して石山本願寺攻撃に参加することを命令。詳細は蜂屋頼隆(「蜂屋兵庫助」)・塙直政(「塙九郎左衛門尉」)に伝達させる。	2566
	4月3日	織田信長、相国寺で会合衆十人を招いて茶会。不住庵梅雪のお手前でもてなし、茶会が終わってから、切り取った蘭奢待を扇子に乗せてその銘香を楽しみ、千宗易(千利休)と津田宗及にも分け与えた。信長は、堺の交易によって、鉄砲、鉛、硝石などを手に入れることをねらった。堺の輸出品は、銅、硫黄、刀剣、漆器、扇、工芸品などで、輸入品は、綿花(木綿)、陶磁器、中国産生糸(白糸)・絹織物、南方産の物資(香木、香辛料など)、鉄砲、ガラス、時計、硝石、鉛などであった。	2567
	4月4日	筒井順慶、妻と母の見舞のため上京す。(『多聞院日記』)。	2568
	4月9日	「織田信長黒印状」。織田信長、山城国の松尾左衛門佐・松尾社務東相房へ、音問で祈祷巻数、菓子一籠の贈呈を謝す。矢部家定、副状を発給。	2569
	4月11日	筒井順慶軍、河内国へ出陣。織田信長の命令により「一揆対治」(石山本願寺攻略)のための出陣であった。筒井順慶は自軍を率いて下向したという。(『多聞院日記』)。	2570
	4月12日	多聞院英俊、織田軍先発隊(「信長先之衆」)が河内国へ出撃し放火したことを知る。(『多聞院日記』)。 「第二次石山合戦」。織田軍先発隊、河内国へ出撃し放火。河内口には、明智光秀、長岡(細川)藤孝らを配した。	2571
	4月13日	「近江守護六角氏の姿は近江から消える」。 織田信長(1534~1582)、近江国石部城に六角承禎・六角義治を攻囲、陥落させる。六角義賢(「佐々木承禎」)は雨夜に紛れて近江国石部城を脱出。信長、近江国石部城には佐久間信盛(「佐久間右衛門」)を配置する。(『信長公記』)。 佐久間信盛(1528~1581)、近江国石部城(滋賀県湖南市石部中央2丁目)に六角承禎・義治父子を攻囲、陥落させる。承禎(1521~1598)は雨夜に紛れて落城前に信楽へ逃れる。	2572
	4月14日	足利義昭、鳥津義久(1533~1611)へ、織田信長と不和になり紀伊国に滞在している旨を通知。「諸口調略」に関して江月斎を派遣し指令を下す。詳細は一色藤長・真木鳥昭光に伝達させる。	2573

天正2	4月14日	柳生宗厳(「柳生但馬」)(1527~1606)父子、筒井順慶(1549~1584)と敵対していた十市遠長(「十常」)(?~1593)と入魂にする。(『多聞院日記』)。	2574
	4月14日	「越前一向一揆(1月17日~4月14日) 一揆持の国成立」。 信長の一字を取って名を「土橋信鏡」と改めた朝倉景鏡(1525?~1574)が、平泉寺(福井県勝山市平泉寺町平泉寺)と共同して一向一揆衆に決戦を挑んだが、一向衆と内通した一部の兵士によって平泉寺を放火され、土橋信鏡は討ち死。かくして越前は、大坂石山本願寺の手に一統され、「一揆持」の国となる。	2575
	4月20日	二条晴良(1526~1579)、「源氏物語」秘訣を、権大納言・三条西実澄(実枝)(1511~1579)から伝授される。	2576
	4月20日	織田信長、京都紫野大徳寺へ大坂方面出陣に際し銀子十両を贈られたことを謝し、上洛した時に詳細を連絡する旨を通知。	2577
	4月25日	織田信長、島田秀満(「島田但馬」)(?~?)・山岡景佐(「山岡対馬」)(1531~1589)へ、大和国東大寺八幡宮の社人・大仏殿寺人の件は「先規」に任せて諸役以下を免除する旨を命令。	2578
	5月5日	「賀茂祭」の「競馬御神事」が「天下御祈禱」のために挙行された。信長は幸いにも在洛中であつたので「度々かち合戦にめさせられ候蘆毛の御馬」をはじめ駿馬を出して「何れも勝」った。信長は、葦毛と鹿毛の御馬を供出、度々勝ち戦で信長が乗った。これ以外に、臣下の持つ駿馬十八匹と合わせて都合二十四匹を供出した。(『信長公記』)。	2579
	5月12日	「第一次高天神城の戦い」はじまる。徳川家康配下・小笠原信興(長忠)(遠江国高天神城将)(?~?)、武田勝頼(1546~1582)に包囲される。	2580
	5月16日	徳川単独では後詰は不可能だとも理解していた徳川家康(1543~1616)、織田信長(1534~1582)に、高天神城(静岡県掛川市上土方・下土方)の援軍を要請。	2581
	5月16日	織田信長、「四之時分」(たかひろす)に鷹広栖に於いて子を産むところを見物するため、大和国へ下国。(『多聞院日記』)。	2582
	5月17日	羽柴秀吉(1537~1598)、河内国の遊佐盛(「遊佐勘解由左衛門」)(?~?)へ、保田知宗(「安田佐介」)(?~1583)(紀伊国在田郡八幡山城主)に人質提出を督促する旨を命令。	2583
	5月20日	織田信長、羽柴秀吉に、丹後若狭の船を、越前国敦賀立石浦に移す準備をするように命じる。	2584
	5月26日	「織田信長朱印状」。信長、根尾三人衆(根尾右京亮・市介・内膳亮)宛へ、越前国小山七郷(福井県大野市周辺)とその公文跡職の宛てがい状を発給。 信長は、根尾谷(岐阜県本巣市)を治める根尾三人衆を土地の支配と現地の役人を任命して、敵対していた大坂の石山本願寺と越前の朝倉義景との連携を防ぐために、加賀・越前その他北国から大坂に行く商人・旅人の通行を止めるように命令した。	2585
	5月28日	高天神城援軍の織田信長、京からようやく、美濃国岐阜城に到着。	2586
	5月-	三月、三淵藤英の旧城伏見を壊した信長、この月、塙直政(?~1576)を南山城守護に任じ、横島城(京都府宇治市横島町)に置く。	2587
	6月1日	信長(1534~1582)は上杉謙信(1530~1578)との同盟関係維持を望み、狩野永徳筆「洛中洛外図屏風」一双を上杉謙信に贈る。	2588

西暦1574

天正2	6月5日	織田信長、尾張国の佐治左馬允へ、「遠州在陣衆」の兵糧米の件で「商買之八木船」にて搬送するので商人共へ順路等の連絡を命令。 信長、尾張国知多郡の商人に遠州出陣の兵糧を調達させる。 佐治左馬允は、知多郡大野城(愛知県常滑市金山)主・佐治為平で信方(為興)(1553?~1574?)の父であろう。	2589
	6月5日	武田勝頼(「武田四郎勝頼」)、遠江国高天神城を攻囲。(『信長公記』)。	2590
	6月5日	岐阜城の織田信長に、武田勝頼の軍勢が遠州高天神城へ攻め寄せたとの報が入る。	2591
	6月6日	羽柴秀吉(1537~1598)、平方・箕浦・川道・大安寺らの名主・百姓に、八日の長浜城普請の人足役を課す。 三層の天守閣は、小谷城の鐘丸を移築。天秤楼は新築、石垣等その他の城様は小谷城より移築。小谷より、大谷市場、伊部、郡上、呉服の商人を移住させる。	2592
	6月9日	織田信長、美濃国の根尾三人衆、根尾右京亮・根尾市助・根尾五郎兵衛へ、高天神城救援のための遠州出馬に際し、越州一揆が蜂起すると判断したので防御を堅固にすべきことを命令。	2593
	6月14日	織田信長、ようやく、嫡男信忠(1557~1582)と共に、遠江国高天神城救援のために美濃国岐阜城を出陣。(『信長公記』)。	2594
	6月17日	織田信長、酒井左衛門督忠次居城の三河国吉田城(愛知県豊橋市今橋町)に着陣。(『信長公記』)。	2595
	6月17日	織田信長、三河国岡崎に到着。	2596
	6月17日	「第一次高天神城の戦い」。 武田勝頼(1546~1582)、不落と名高い遠江国高天神城(静岡県掛川市上土方・下土方)を陥落させる。 織田・徳川氏の来援が遅れたため、籠城する小笠原信興(長忠)(遠江国高天神城将)は、穴山信君(1541~1582)の講和に応じて降伏、武田に降る。	2597
	6月19日	織田信長、三河国今切を渡る前に小笠原信興(長忠)「(小笠原与八郎)」の逆心により遠江国高天神城が陥落した旨を知り、三河国吉田城へ引き返す。(『信長公記』)。	2598
	6月19日	織田信長(1534~1582)、遠州浜松から礼参の家康に、兵糧代として黄金を皮袋二つ分を与え遅参を詫げる。	2599
	6月21日	織田信長・織田信忠、美濃国岐阜城に帰城。(『信長公記』)。	2600



勝竜寺城公園

西暦1574

天正2	6月29日	織田信長、上杉謙信へ、全七ヶ条の「覚」を発す。 その内容は山崎専柳斎(上杉使者)と対面したこと、信長が信濃国・甲斐国へ出陣しないのは五畿内・江北・越前国方面での戦闘に集中していたためであること、上杉謙信からの来秋の信濃国・甲斐国方面への出撃要請を承諾したこと、九月上旬頃の出陣を予定しているが、詳細な日限は協議の上で決定すること、武田勝頼は若輩ではあるが「信玄掟」を遵守しており表裏もあるので油断は出来ないこと、信長が謙信からの五畿内表に執心せず信濃国・甲斐国方面に尽力するという要請は承諾したこと、大坂表の件は畿内の軍勢に委任し、「東国」への軍事行動は近江国・尾張国・美濃国・三河国・遠江国の軍勢で出撃すること等を通知。	2601
	6月-	この月、長岡(細川)藤孝(1534~1610)が、勝龍寺城殿主(天守)において、三条西実澄(実枝)(1511~1579)より古今集切紙を伝授される。 三条西家に代々伝わる古今伝授は一子相伝の秘事であったが、息子・公国(1556~1587)が若かったため、やむなく弟子の細川藤孝(幽齋玄旨)に初学一葉を与え、「たとえ細川家の嫡男の一人といえども、絶対に他人には伝授しないこと、三条西家に、もし相伝が断絶するようなことがあれば、責任をもって伝え返すこと」等を誓わせ、古今伝授を行った。後にこれは現実のものとなり、公国が早世すると、幽齋は実枝の孫の実条(1575~1640)に古今伝授を伝えた。	2602
	6月-	「越前一向一揆」。一向一揆勢、木ノ芽城(木ノ芽峠城)(福井県南条郡南越前町板取)の阿閉貞征(貞秀)(?~1582)を攻撃。	2603
	7月1日	武井夕庵(「尔云」)、長景連(「長与一」)へ、「御書」頂戴及び上杉謙信「御使」として山崎専柳斎が到来したことについて織田信長は満足していること、この春の上杉謙信「関東御進発」の折りの活躍に触れ、上杉謙信から要請された織田信長にこの秋の「信州表可被及御行」きの件は好機であること、「第一御入魂」は下々までも大慶であること、詳細は山崎専柳斎が伝達する旨を通知。	2604
	7月4日	「何人百韻」。明智光秀、長岡(細川)藤孝・里村紹巴らと連歌を詠む。	2605
	7月6日	坂本城において義昭の旧臣、三淵藤英(?~1574)・秋豪(?~1574)父子が切腹する。 この年、信長によって突如所領伏見城(京都市伏見区桃山町松平越前)を没収されて明智光秀の元に預けられていたが、自害を命じられた。信長に疎まれたという。伏見城は廃城となる。 三淵藤英は、長岡(細川)藤孝(1534~1610)の異母兄。	2606
	7月8日	明智光秀(1528?~1582)、伊藤宗十郎(?~1615?)へ、坂本での商売役については同所の舟奉行・町人中が管掌することを伝える。 宗十郎は、伊藤祐広の子。名は祐道。永禄9年(1566)織田信長判物を受けて、父と共に織田信長に仕え、元亀3年(1572)朱印状を得て尾張美濃の呉服商を統括した。慶長16年(1611)名古屋に呉服小間物問屋いとう呉服店(大丸松坂屋百貨店の前身)を創業。慶長20年大坂の陣で戦死したという。のち子の祐基が営業を再開、伊藤次郎左衛門(初代)を名乗る。	2607
	7月12日	「信長の第三次伊勢一向一揆討伐戦-7月12日~9月29日」はじまる。 織田信長・信忠父子、三回目、最後の伊勢長島一向一揆を鎮圧するために出陣。十三日、伊勢国津島に布陣。(『信長公記』)。	2608

天正2	7月14日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。織田信長 (1534~1582)、伊勢長島城に通ずる諸口へ旗下の大軍勢を進軍させる。柴田・佐久間隊を北西の香取口より中州に攻め入らせ、信忠隊を北東の市江に留めて予備隊として備えさせ、自らは羽羽隊を従わせて北方から攻め込むとする。	2609
	7月15日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。九鬼右馬允嘉隆の安宅船と滝川一益・伊藤三丞・水野監物らの安宅船、および島田秀満・林秀貞・北畠(織田)信雄の艀船ら、伊勢国河内長島一揆鎮圧のため水軍を率いて参陣。四方より取り詰められた一揆勢は妻子を引き連れて長島城へ逃げ入る。信長・信忠は、殿名(桑名)に本陣を敷く。	2610
	7月20日	荒木村重(「アラキ信濃」)の軍勢、摂津国中島に於いて過半が討死す。(「多聞院日記」)。 「第二次石山合戦」。織田家臣荒木村重 (1535~1586)、石山本願寺の出城である摂津国中島城を攻めるも、過半が討死し退けられる。	2611
	7月20日	織田信長、高田専修寺・朝倉景健(「朝倉孫三郎」)・堀江景忠(「堀江中務丞」)・大井四郎・細呂木某・嶋田某・実乗坊・了実坊へ、「越州出馬之刻」における忠節を賞し、知行は望みの通りに宛行う旨を通達。朝倉旧臣のうち、信長に臣従するに際して姓や名を改めた者が少なくない。桂田長俊の旧姓名は前波吉継、同様に、富田長繁は富田長秀、土橋景鏡は朝倉景鏡、三富景冬は朝倉景冬、安居景健は朝倉景健である。	2612
	7月20日	織田信長、越前国高田専修寺へ、「鼓之革大小若松」二懸を贈られたことを謝す。	2613
	7月20日	羽柴秀吉(1537~1598)、越前国敦賀より高田専修寺・朝倉景健(「朝倉孫三郎」)・堀江景忠(「堀江中務丞」)大井四郎・細呂木某・嶋田某・実乗坊・了実坊へ、越前国への「信長出馬之刻」の際の忠節に対し織田信長「直札」を以て望み通りの知行宛行が通達されたので菅屋長頼(「菅屋玖右衛門尉」)と相談の上で実行する旨を通達。	2614
	7月22日	筒井順慶(1549~1584)、十市遠長(「十市」)(?~1593)と「入魂誓紙」を交換し同盟を締結。(「多聞院日記」)。	2615
	7月23日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。伊勢国長島一向一揆討伐に進軍の織田信長に、信忠軍、信雄軍、信孝軍も従軍。	2616
	7月23日	織田信長、荒木村重(「荒木信濃守」)へ、去七月二十日に石山本願寺出城の摂津国中島城(堀城、大阪市東淀川区塚本町)を攻略した「武勇」を賞し、荒木側(「味方」)の損害は「古今有習」であるので「不苦」ということ、織田信長が在陣している伊勢国長島方面の戦況は塙直政(「九郎左衛門尉」)より通知した通りで、現在は長島一向一揆の包圍網を縮小しているので「落居」は間も無いこと、鎮圧後は上洛して面談することを希望する旨を通知。	2617
	7月23日	織田信長、河尻秀隆(「河尻与兵衛尉」)へ、伊勢国長島一向一揆は種々の「懇望」を申し入れてきたが、織田信長は「根切」る決意であり「其咎」は免じない方針であることを通達し、河尻秀隆が出陣している大坂方面の件は心配であるので油断無く守備することを命令。	2618
	7月24日	織田信長、筒井順慶へ、伊勢国長島一向一揆包圍網を縮小、間も無く鎮圧する予定であること、近日中に上洛して大和国方面の状況について面談することを通知。詳細は塙直政(「九郎左衛門尉」)に伝達させる。	2619

天正2	7月27日	「第二次石山合戦」。明智光秀(1528?~1582)、大坂表における本願寺・三好勢拳兵の模様を信長に報告する。	2620
	7月28日	「織田信長黒印状」。織田信長、近江国多賀神社不動院へ、伊勢国陣中に於いて「当陣につき牛王・札・守・巻数頂戴せしめ候、遠賜祝着致し候」と陣中見舞いを謝し、戦況は織田信長に有利に展開しているので心配は無用であること、また対面希望の旨を通知。	2621
	7月29日	「織田信長黒印状」。「先書之返事、廿七日付、今日披候、切々口寔寄特候、次南方之趣、書中具二候へハ、見ル心地二候」。	2622
		信長、明智(明智光秀)へ、「南方」の戦況報告に満足、先度の荒木村重が戦果を挙げて以後目覚ましい功績が無いこと、反逆した伊丹親興の伊丹城は兵糧が欠乏すれば「落居」は必然であること、伊丹城は後巻きにするべきか否かは明智光秀の判断に任せること、信長在陣の伊勢国戦況は篠橋・大鳥居を包圍し、これらに兵糧が皆無であることは確実に数日のうちに「落居」するであろうこと、この二拠点を陥落させれば伊勢国長島一向一揆を攻略したも同然であること、早くも城内に於いては男女の餓死者がことに多いという情報を入手したこと、以上のような戦況であるので近日戦闘を終結させて帰陣し、上洛する予定であることを通知。 伊丹親興(?~1574)は、足利義昭方に付いていた。	
	7月30日	長岡(細川)藤孝(1534~1610)、織田側の河内国若江城(大阪府東大阪市若江南町)などに攻撃を仕掛けてきた遊佐信教(1548~?)・三好康長(後の咲岩、笑岩)(?~?)・一向一揆勢を撃退する。	2623
	8月2日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。織田軍、この夜に夜陰と風雨に紛れて伊勢国大鳥居城を脱出しようとした一揆勢一千人ばかりを殺害。(『信長公記』)。	2624
	8月3日	織田信長、細川藤孝(「長岡兵部大輔」)へ、去七月晦日に河内国若江城など織田側の拠点に「敵」(遊佐信教・三好康長ら)が攻撃を仕掛けた時に撃退したという報告を受けたこと、織田信長が在陣している伊勢国方面の戦況について「端之一揆」が籠城する拠点を攻略し、敗走する一揆勢を「追討」ちして多数を討ち取り、長島城一ヶ所に追い詰めたので、近日中に「落居」させる見通しであること、その際に織田信澄(「津田」)の件で「粗々承」けたことについては上洛してから相談することを通知。詳細は塙直政(「塙」)に伝達させる。	2625
	8月3日	「第三次伊勢一向一揆討伐戦」。 織田信長、伊勢国長島一揆の拠点・大鳥居砦(三重県桑名市多度町大鳥居)を攻略。	2626
	8月5日	「織田信長朱印状」。織田信長、長岡兵部大輔(細川藤孝)へ、「本願寺一揆を根切之覚悟」で臨むべきこと、詳細は明智光秀と相談するべきこと、尾張国・伊勢国中の一揆は搜索の上で悉く「根切」りにしたこと、伊勢国長島城に一揆勢が「北入」ったので織田信長は「取巻詰寄」せており、城内に兵糧は欠乏しているので「落居」は間近いこと、長島城陥落後は直ちに上洛し石山本願寺との戦線を「平均」する予定であることを通知。	2627
	8月5日	織田信長、奥州より献上された鷹見物のため一旦岐阜城に戻る。	2628
	8月7日	武井夕庵(「夕庵尔云」)、山城国安楽寿院年行事へ、織田軍の陣取り免除を通達。	2629

西暦 1870

明治3 11月7日 羽前国天童藩知事・織田信敏(1853~1901)、天童の舞鶴山に社殿を造営し、織田家始祖である織田信長を分霊として祀る。 5402

西暦 1871

明治4 9月15日 明智光秀の首塚(下京区梅宮町)(現・京都市東山区梅宮町)を取り払い、塚趾大義を説明した高札を掲示。 5403

西暦 1880

明治13 9月1日 「建勲神社」を京都船岡山に創設する。社殿(本殿・拝殿等)(国登録有形文化財)が竣工して東京より遷座。織田信長の子孫で天童藩知事・織田信敏の邸内(東京)から健織田社が遷座した。 5404



建勲神社



光秀首塚

あとがき

本書(下巻)は、天正元年(1573)足利義昭を追放した織田信長が畿内を掌握を志向した天正2年(1574)からはじめ、明智光秀謀反の天正10年(1582)6月の「本能寺の変」、その後、羽柴秀吉が織田家中第一人者となるまでの軌跡を記載しました。

越前一向一揆、大坂本願寺の再挙、伊勢一向一揆、明智光の丹波国征討戦、石山本願寺の籠城五年、松永久秀三度の謀反、紀州征伐、織田軍の加賀出兵、荒木村重の謀反、天正伊賀の乱、武田征伐など戦いに明け暮れた織豊時代(安土桃山時代)前半の戦い、和睦と、目まぐるしい激動、波乱の時代を垣間見て頂けましたら幸いです。

編集にあたり、別記参考図書・関連図書や国立国会図書館デジタルコレクション、東京大学デジタルコレクション、国の公式WEB、各自治体・各大学・各団体WEB等、大いに活用させていただきました。しかし、資料による違い、異説、物語などあらゆる事項があり、すべては、弊社の編集責で掲載しております。

最後になりましたが、写真提供などしていただいた鳥越一朗氏、また、ご協力いただきました取材先様、スタッフの皆さまに、厚く御礼申し上げます。

惟任日向守、第六天魔王を討つ！
年表帖 明智光秀・織田信長一代記(下巻)

第1版第1刷

発行日 2020年3月20日

年表 ユニプラン編集部

編集 ユニプラン編集部(鈴木正貴 橋本豪)

写真 鳥越一朗 他

イラスト 萩原タケオ

デザイン 岩崎宏

発行人 橋本良郎

発行所 株式会社ユニプラン <http://www.uni-plan.co.jp>
(E-mail) info@uni-plan.co.jp

〒601-8213 京都市南区久世中久世町1丁目76

TEL(075)934-0003 FAX(075)934-9990

振替口座/01030-3-23387

印刷所 株式会社 谷印刷所

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-89704-496-5 C0021